

## バロック時代の音楽・ダンス・オペラ

1. 日 時： 2022年 11月 16日(水) 17:00 ~ 18:30

2. 場 所： F434教室

3. 対象学生(必修)： 西洋音楽史概説A/B、院・修士資料研究、短大音楽史

4. 講師紹介： ピエール・フランソワ・ドレ / 樋口裕子氏 ※学内のみ他聴講可

ピエール・フランソワ・ドレ氏

パリ在住。フランスで最も活躍するバロックダンサーの一人。コロニーのコンセルヴァトワールで舞踏研究し、最優秀で卒業後、ドイツ・イギリス他でバレエダンサーとして活躍。その後、フランスへ戻り、C.ペイルにバロックダンスを師事。ペイル率いるバロックダンスカンパニー「レクラ・ド・ミュージズ」で活躍する他、フランスの主要なバロックダンスカンパニーにも招聘されて、パリ・オペラ座やヴェルサイユ宮殿、ほか各地で踊る。近年、演出・振付も活発に行っており、2021年、東京の北とぴあで上演された演奏会形式のオペラ「アナクレオン(作曲J.P.ラモー)」にダンサーとして出演するだけでなく、演出も行った。2022年12月も北とぴあ主催オペラ「アルミード(作曲J.B.リュリ)」にもダンサー兼演出家として招聘が決まっている。フランス語の他、ドイツ語、英語も堪能。

樋口裕子氏

同志社女子大学音楽学科声楽専攻卒業。

大学在学中にルネサンス～バロック時代の舞踏の研究を始め、奥・英・仏にて研鑽を積む。PTNA・才能音楽教育研究会など日本各地で舞踏実技の講座を行う一方、「J.S.バッハと宮廷舞踏」「信長公御所望の南蛮音楽と踊り」「マリーアントワネットが見たヴェルサイユの舞踏会」などに出演。2005年、ザ・フェニックスホール・エヴォリューションメモリアル公演に選ばれ、「王宮のバロックダンス」をフランス人のプロの男性バロックダンサーと上演する。

また2007年にはバッハ・モーツァルト・ショパンの舞曲をそれぞれ時代の異なる3台の鍵盤楽器の演奏で踊るという画期的な公演「メヌエットからワルツへ」で主演。現在、同志社女子大学、大阪音楽大学講師。

5. 講義概要：

講義の主な内容(順不同)

- ①バロックダンスの歴史や実演の解説
- ②ルネサンス、バロック、ロマン派の時代のお辞儀などの所作(オペラの動きと関連づけて)
- ③受講生によるステップやお辞儀の体験
- ④ダンスのデモンストレーション(メヌエット、クラント、ブレ、サラバンド、パスピエ、他)